



響

H i b i k i



令和4年2月21日

ICTを活用した
新しい学びの
カタチ

授業におけるICT端末の効果的な活用が進んできました。
今回はA中学校の実践をもとに「同時共同編集」のメリットを
紹介します。

第3学年 理科
「月の満ち欠け」の授業
問題を見いだす場面

一人ひとりが自分の考えをもち、友だちの考えを確認できるようにするために…

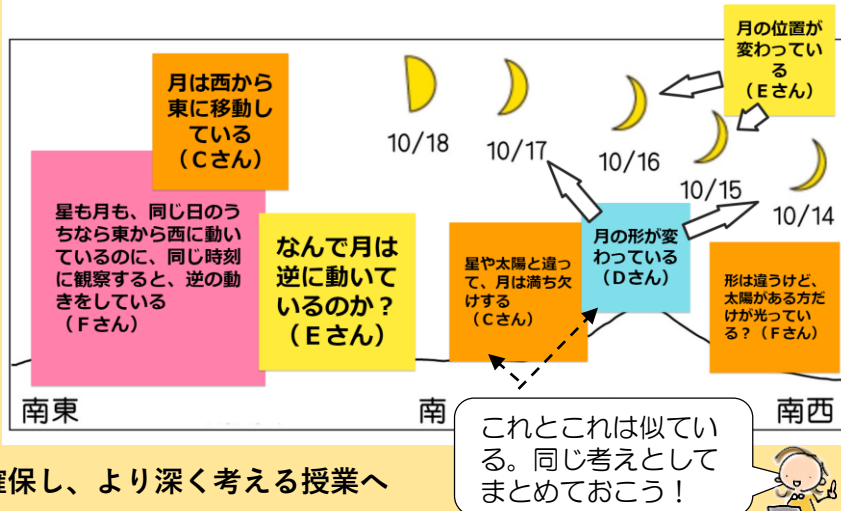
- ①付箋アプリを使用。
- ②観察記録を見て気付きや疑問を各自が入力。
- ③共同編集したシートを見て、互いの考えをじっくり確認。
- ④似た内容の付箋を近くに並べて整理。

こんな使い方

意見交換する時間を確保し、より深く考える授業へ

同じ時刻に月の形・位置を5日間観察した記録

気付いたことや疑問に思ったことを付箋に書いてみよう 2班



子どもにとってのメリット

みんなはどんなことを考えているのかな?

ICTを使うと

他の友だちの考えをすぐに知ることができる!

似た考えを簡単に整理できる!

話し合い、考える時間が増える!

友だちの考えを参考に新たな考えを生みだすきっかけになる!

さらに先生にとってのメリット

一部の生徒と私だけのやりとりで授業が進んでいるような気がする…

ICTを使うと

全員の子どもの考えを捉えることができるので、子どもの考えを生かして授業を進めることができる!

観察記録を印刷した紙や付箋の準備が大変…。どんどん紙が増えていって保管場所が…

ICTを使うと

クラウドに保存されるので、保管場所もスペースもいらない!

さらに

他の班の友だちの考えも簡単に知ることができる!

3班のシートには、「星は1日に1度動くのに対して月は1度どころじゃない。」と書いてあった。私たちは気付かなかった。確かに月は星よりも大きく移動している!

ポイントは「クラウドを利用した情報共有」です。ICTを活用して、情報を共有しながら、他者と協働して学び力を身に付けていくことが新しい学びのカタチの一つです。各校でのさらなる効果的な活用を期待します。

『クラウドによる同時共同編集 授業づくり実践編』



長野県の今年度の実践がまとめられています!

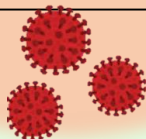


新型コロナウイルス感染症による偏見や差別・いじめをなくそう！

今こそ、お互いの人権を大切にしましょう

いまだに新型コロナウイルス感染症の拡大が続いています。そのような中で、誰もが新型コロナウイルス感染症に対する不安や恐れを抱えています。

目に見えないウイルスが身近に迫りつつあることへの不安・恐れ



すり替わる

目に見える「特定の人」や「特定の集団」を排除・攻撃して心理的な安心を取り戻そうとする



本当の対象を見なくなる

差別・偏見
いじめ



この不安や恐れから偏見や差別・いじめが生まれています。もし、あなたやあなたの家族が感染し、周囲の人から非難されたり、誤った情報が流れたりしたらどう感じますか？

偏見や差別をなくすのは学校・教室から

正しい知識

信頼できる機関が発信する正しい情報を伝えましょう

冷静な行動

差別的な言動に同調しないようにしましょう

感謝

くらしを支える人、身近な人に感謝しましょう

相談

どんなことでも相談できる環境を作りましょう

支え合い

身体的な距離を取っても心はつながりましょう

ワクチン接種に関する差別もあってはならない
強制ではなく、できない人、しないことを選ぶ人もいます

安心して治療ができる、安心して学校にもどれる

「だれかのこと」ではなく、「自分のこと」として考えることから
スタートしてみましょう。

人権が尊重される場としての学校・学級に